

緩和ケア論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次後期

○秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
大野 智	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター センター長・教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
広瀬寛子	戸田中央総合病院 カウンセリング室 室長
加藤典子	島根県立大学看護栄養学部 准教授
林ゑり子	藤沢湘南台病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和するために必要なケアの専門的知識を習得する。また、エンド・オブ・ライフケアの視点による患者・家族の QOL 向上を目指した包括的看護介入、リソースの活用、グリーフケアについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念について理解する。
- 2) がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩について理解する。
- 3) がん患者のスピリチュアルな苦痛・苦悩に対するケアの実践方法について探究する。
- 4) がんの補完代替療法について理解する。
- 5) 治療期、医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、在宅療養期、終末期にあるがん患者とその家族の在宅療養支援と地域連携について理解する。
- 6) エンド・オブ・ライフケアの概念について理解する。
- 7) アドバンス・ケア・プランニングの実践方法と課題について理解する。
- 8) 終末期の鎮静について理解する。
- 9) 緩和ケアにおける倫理的課題を理解し、その対応について探究する。
- 10) がん患者の家族の心理的ケアについて探究する。
- 11) 緩和ケアにおける看護師の心理的ケアについて理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 3) 評価
レポート 50%、講義への参加状況 30%、プレゼンテーション内容 20%にて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

恒藤暁, 岡本禎晃：緩和ケアエッセンシャルドラッグ第3版, 医学書院, 2014
広瀬寛子：悲嘆とグリーフケア, 医学書院, 2011
その他、必要に応じて提示する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアの概念、歴史的変遷 がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩の理解	掛橋千賀子
2	がん患者の実存的苦痛 (1) スピリチュアルペイン、苦悩	林 凧り子
3	がん患者の実存的苦痛 (2) スピリチュアルペイン、苦悩のアセスメントとケア	林 凧り子
4	子どもを持つがん患者への支援	秋鹿都子
5	がん補完代替療法	大野 智
6	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (1) 治療期にあるがん患者・家族に対する緩和ケアの実際と課題	加藤典子
7	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (2) 在宅療養への移行期、在宅療養期、終末期におけるがん患者・家族 に対する緩和ケアの実際と課題：療養の場の選択と意思決定支援	加藤典子
8	エンド・オブ・ライフケアの概念	大野 智
9	アドバンス・ケア・プランニング (1) 支援の実際	大野 智
10	アドバンス・ケア・プランニング (2) 課題	大野 智
11	終末期の鎮静	掛橋千賀子
12	緩和ケアにおける倫理的課題と対応	掛橋千賀子
13	家族の心理的ケア (1) 家族の予期悲嘆への対応、悲嘆プロセスをふまえたケア	広瀬寛子
14	家族の心理的ケア (2) 看取りとグリーフケア	広瀬寛子
15	緩和ケアにおける看護師の心理的ケア	広瀬寛子